

あいち 食品工業技術センターニュース

2017年4月号

- 今月の内容
- 新任のごあいさつ
 - 平成29年度 研究テーマ
 - 平成29年度 新体制及び人事異動
 - お知らせ

新任のごあいさつ

センター長 岡本徳隆



4月1日付けであいち産業科学技術総合センター食品工業技術センター長に就任しました岡本徳隆でございます。よろしくお願いいたします。

愛知県は38年連続して製造品出荷額日本一の座を保っています。その金額は約4.4兆円で、2位の神奈川県の約1.8兆円をダブルスコアで引き離し、我が国で絶対1位のモノづくり県として今後もこの地位が揺らぐことはないでしょう。この中で自動車産業の占める割合は大きいのですが、食品工業を始め自動車以外の製造業も幅広く分布しており、他県に負けない多様な産業があります。中でも愛知県の食品工業は2兆円を超える製造品出荷額があり鉄鋼、電気機械器具に肩を並べており、約7万人の方が従事されています。その中を見ると酒、味噌、醤油、みりん、酢、和菓子、洋菓子、パンや漬物、豆腐、麺類、総菜、に加え糖類や粉など食品中間材料等の食品工業を核として食品包装材料さらには食品加工機械や卸、小売りの食品流通まで実に幅広い食品関連産業集積（クラスター）が形成されています。

当センターも皆さんが形成している、この重厚な本県食品産業クラスターの一部であり、昭和31年の設置以来、一貫して県内食品企業の皆様とともに歩んで参りました。

「不易流行」と言う言葉がございますが、国

際的な政治や経済は大きく動いており、天候に左右されやすい食品原料価格や為替も日々変動していますが、食品工業技術センターが、食品企業の皆様と共にあるというスタンスは不易です。しかし、食品の「安心」「安全」への要求はさらに高まり、食品表示の改正や国際的な基準への対応など、食品業界を取り巻く新たな課題が発生しています。

今年度、愛知県では大村秀章知事のもと、『愛知一番』を目指す予算を編成し、産業力、経済力、文化力、人財力、地域力といった愛知の総合力を一段と高めていきたいという思いを込め、施策を展開して参ります。

あいち産業科学技術総合センターにおきましても、食品産業の方々にも、より精緻な分析をご利用いただけるよう、シンクロトロン光ビームラインを強化するほか、シンクロトロン光の清酒製造プロセスへの活用に関する重点プロジェクト研究をはじめ6件の研究に取り組んで参ります。こうした先端的研究に加え、食品企業の皆様方の新商品開発に向け、おいしい非常食の開発に関する研究会を新設します。また、品質・衛生管理につきましても、現場、現物、現実に細かく対応してまいりますので、これまで以上にご活用をお願いいたします。